

# 付着生物(ユウレイボヤ等)ラーバ情報

平成27年3月14日～18日に陸奥湾6定点で付着生物ラーバ調査を行ったので、その結果をお知らせします。※4～9月は久栗坂・川内のみ調査

## 1 ラーバの出現数

オベリア類(通称クサ)のクラゲは奥内沖で1.7個/トン、久栗坂沖で2.2個/トン、小湊沖で20.0個/トン、野辺地沖で74.2個/トン、川内沖で35.2個/トン見られました。(図1)

キヌマトイガイのラーバは奥内沖で18.3個/トン、久栗坂沖で54.4個/トン、小湊沖で406.3個/トン、野辺地沖で866.4個/トン、久栗坂沖で93.9個/トン、川内沖で466.4個/トン見られました。(図2)

その他の付着生物のラーバ等の出現数は表1のとおりで、ユウレイボヤ、ザラボヤ、ネンエキボヤは見られませんでした。

表1 ラーバ等の出現状況

調査地点	調査月日	ユウレイボヤ	ザラボヤ	ネンエキボヤ	オベリア類	キヌマトイガイ
蟹田沖	H27.3.18	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
奥内沖	H27.3.16	0.0	0.0	0.0	1.7	18.3
久栗坂沖	H27.3.16	0.0	0.0	0.0	2.2	54.4
小湊沖	H27.3.14	0.0	0.0	0.0	20.0	406.3
野辺地沖	H27.3.15	0.0	0.0	0.0	74.2	866.4
川内沖	H27.3.16	0.0	0.0	0.0	35.2	466.4

※久栗坂・川内沖は実験漁場内

## 2 水温の状況

各ブイの3月26日の平均水温は表2のとおりです。

## 3 今期(平成26年10月～平成27年3月)の状況と今後の見込み

オベリア類のクラゲの出現数は昨年同時期並みの出現数となっておりますが、昨年の場合、これらのクラゲ出現の後に出るオベリア(クサ)は数cm位で成熟した後枯死しています。すでに付着している大型のオベリア(クサ)は、成長のピークを過ぎ今後枯死して行きますが、脱落しにくく他の付着生物や泥が付き、重量が増す可能性があります。

キヌマトイガイラーバは昨年より多い出現数となっておりますが、久栗坂、川内では前回調査(3月上旬)より減少しています(図2)。過去、キヌマトイガイが多い年は2～3月にラーバ出現数の最初のピークがあり、一旦減少した後5～6月にかけて再びラーバが大量に出現する傾向があります。久栗坂、川内の実験漁場での1ヶ月ごとのパームロープへの付着状況をみると、キヌマトイガイは1月15日～2月12日の間に付着が始まり、2月12日～3月16日の間には付着量が増加しました。

ユウレイボヤは昨年10月～12月にかけてラーバが出現し(図3)、現在大小のユウレイボヤが養殖施設に付着しており、成熟しているものが見られます。1月15日～2月12日の間実験漁場に垂下したパームロープに、付着後間もないと思われるユウレイボヤが見られ(写真1)、今後の湾内の水温上昇に伴ってラーバの出現・付着が進んで行くものと思われます。

ネンエキボヤについても、今後の湾内の水温上昇に伴ってラーバの出現・付着が始まるものと予想されます。

以上のことから、付着物対策として養殖カゴの入れ替えや洗浄作業を行う場合、3月下旬～4月上旬頃が適当と思われます。

今回で平成26年度の付着生物ラーバ情報は終了します。

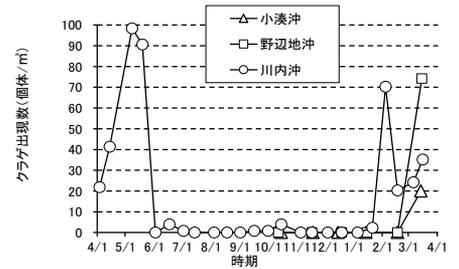
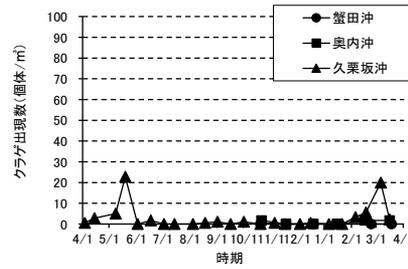


図1 オベリア類(クサ)のクラゲ出現数の推移(26.4～27.3)

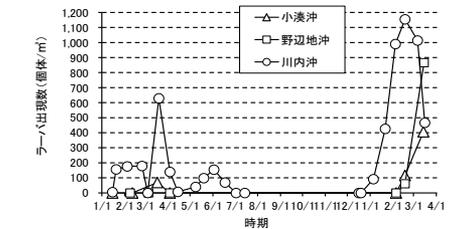
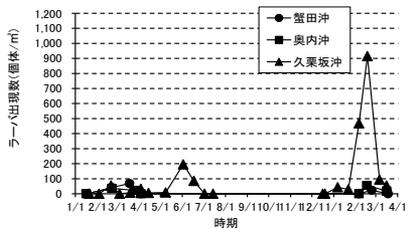


図2 キヌマトイガイラーバの出現数の推移(26.4～27.3)

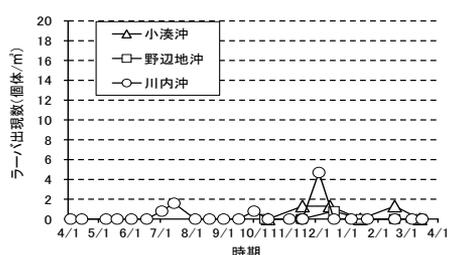
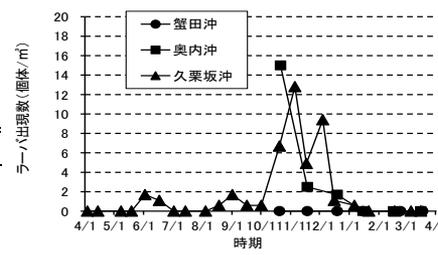


図3 ユウレイボヤラーバの出現数の推移(26.4～27.3)

表2 各ブイの中層における日平均水温(3/26)

観測地点	水温(°C)	観測地点	水温(°C)
平館ブイ	8.9	野辺地ブイ	7.3
奥内ブイ	8.3	東湾ブイ	5.5
青森ブイ	8.2	浜奥内ブイ	5.7

※奥内、野辺地、浜奥内は10m層、他は15m層

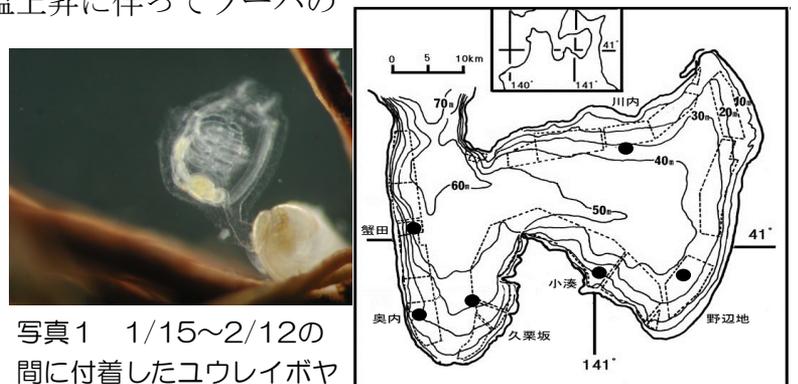


図4 ラーバ調査地点



写真1 1/15～2/12の間に付着したユウレイボヤ(1～2mm)

